
雷のよるに

ふるーつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雷のよるに

【Nコード】

N9590C

【作者名】

ふるーつ

【あらすじ】

タイトルの通り、雷の夜の話です。ビビリまくってコナンに泣きつく蘭。そして、なんだかんだで結局蘭にはかなわないコナン。安心して読めるほのぼの系です。

昼過ぎから降り始めた雨は、止む気配もなく。…というか、勢いは明らかに増していた。

そんな天気にも関わらず、小五郎は麻雀の約束があるとかで、午後に外かけていった。

『ちよつと、ドシヤ降りになるかもよ？ちゃんと帰ってくるの？』

『ああちゃんと帰るよ。んじゃな、留守番しとけ』

…と言っておきながら、ついさっきかかってきた電話では、

『悪い、こっちがちよつと盛り上がっちゃってな。どーせ雨もすげーし、一晩こつちに止まってくから』

ちよ(れい)ばかい
朝令暮改ちようりくかいといふかなんというか。それでも、蘭の大嫌いな例のモノがきそうだと思ったら、いつもは無理してでも帰ってくる。こんなにあつさり『悪い』と電話を寄こしたのは、この少年がいるからだ、蘭は思う。

「あーあ、なんかすごい……来そうだなー」

何が、とはあえて言わない。が、その気配は段々近づいていた。

そして…。

カツと、真つ黒な空の1点が閃いたと思ったら、10秒ほどして、ソレが始まった。

ドオン！…ゴロゴロゴロ……

「きゃあっ！」

思わず、コナンを抱えて悲鳴をあげる蘭。途端に、コナンの体温

が少々上がる。

「だ、大丈夫だよ蘭姉ちゃん。まだずっと遠いし……」

「でっ、でも大きかったよ。どうしよう……このままじゃ寝られないよ」

ちなみに、只午後10時。小学生ならとくに寝ているべき時間。そして、ふたりとも風呂は無事に(?)済ませていたのだった。

「……」

だからって、どうしろってんだ。まさか、いつかみてーに一緒に寝るとか言っんじゃないやろーな。

なんていうコナンの心の声が聞こえる訳もなく、本気で怯えている蘭が、まさにど真ん中をついた。

「……ねえ、コナン君？一緒に寝てあげよつか？」

「あげよつか、って。一緒に寝てほしいのは、蘭姉ちゃんの方でしょ」

コナンが訂正を入れる。蘭は後ろからコナンを抱えているので見えないはずだが、口調で大体通じたはずだ。

「だって、雷苦手なんだもん……」

その可愛らしい言い草に、コナンは思わずくすつと笑った。また、遠くでドンという音が聞こえる。

「まあ、どーしても一緒に寝てほしいなら、嫌とは言わないけど？」

正直、蘭がすぐ近くにいた状況で、ぐっすり寝られるなんて自信は全然ない。

ただ、よく推理小説を読みながら夜更かししているので、多少の睡眠不足ぐらいなら、別になんてことはない。

何より、蘭の雷嫌いは、幼い頃からのもの。言っなれば、筋金入りなのだ。

それに。

「…僕が、今夜だけでも新一兄ちゃんの代わりになれるんなら、まあ、いいよ」

蘭が、はっとするのがわかる。

「それに、新一兄ちゃん、まだ帰ってきてくれないし。今夜一晩ぐらい、僕が蘭姉ちゃん独り占めにしてもいいよね」

そこまで言って、笑顔で振り向いた。　鈍い蘭には、これくらい言っただって気付きやしない。

「コナン君……」

言葉を失う蘭に、コナンはさらにニコツと笑った。

この会話だけでも、多少なりと蘭の気が雷からそれていればいいけど。　そんなことを頭の片隅で考えてもいた。

「どうする？ 蘭姉ちゃん」

いつも、こんな会話になると主導権をかつさらわれるコナンだが、今夜だけは何か調子がよかった。

「…ありがとう、コナン君」

蘭はぽつりと言って笑った。相変わらず、外の音に怯えながらの笑顔だが、他ならぬコナンには、花の蘭よりも綺麗な笑顔に見える。

「じゃあ、コナン君の布団、私の部屋に運ぶね」

そう言って、心なしか元気そうに部屋を出て行く蘭を見送ると、コナンは軽いため息をついた。

「……結局、勝ったんだか負けたんだか……」

どうにも、勝った気がしねえ。というか、オレがあいつに完全勝利できる日なんて来るのかね。

そして予想通り、翌朝。コナンは寝不足のまま、台風一過のような清々しい夜明けを迎えたのだった。

（後書き）

大して斬新でもない、雷ネタです。

この間、ふつと書きたくなくて、ほとんど何も考えずに書き始め、超思いつきで書き上げました。

書き終わってふと「この状況で、コナンがわざわざ新一の名前出すかなあ？」と思ったんですが、そこは無視しました（自分の意見のくせに）。だって、ただ蘭が怖がつてる話じゃつまらないし・・・。これからは、短編でも多少ひねった話を考えたいと思います。

あ、ちなみにタイトルは「あらしのよるに」のもじりです（タイトルだけ。映画は見た事ないです）。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9590c/>

雷のよるに

2010年10月10日04時04分発行